

スマート・メガスケール 植物工場ネットワークによる 国際競争力のある農作物生産

- 主 催：農学委員会・食料科学委員会合同 農業情報システム学分会、農学委員会農業生産環境工学分会
- 後 援：日本農業工学会、日本生物環境工学会、農業情報学会、農業食料工学会、農業施設学会、日本農業気象学会、生態工学会、園芸学会、千葉大学環境健康フィールド科学センター(千葉大学植物工場拠点)、大阪府立大学植物工場研究センター、愛媛大学植物工場研究センター、一般社団法人日本施設園芸協会(予定)
- 場 所：日本学術会議講堂
- 開催趣旨：

太陽光植物工場は、二酸化炭素・気温・湿度等を対象とした環境制御技術とICT・自動化・機械化等の先端工業技術との融合により、地域における農作物の生産効率を最大化するシステムとして確立されつつある。他方、商業的成功を前提とした生産システムであるため、近年では、競争力強化のための超大規模化(経営・生産規模の拡大)が重要検討事項となっている。本シンポジウムでは、国際競争力を有する農作物生産システムとして従来の約100倍の栽培面積(100ha)を有するメガスケール植物工場を念頭におき、その社会実装モデルを提案するとともに、そこで必要とされる技術的要素と社会基盤整備について議論する。

司会：清水 浩(日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授)

開会の挨拶

澁澤 栄(日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究科教授)

「ICTが切り拓く新たな農業情報の利活用 ～AIとIoTの進展を踏まえて～」

神成淳司(内閣官房副政府CIO、慶應義塾大学環境情報学部准教授、同 医学部准教授(兼任))

「大規模施設園芸における知農化の意義」

澁澤 栄(日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究科教授)

「ロボット化された植物診断技術が可能にする大規模生産管理」

高山弘太郎(日本学術会議連携会員、愛媛大学大学院農学研究科准教授)

(休憩)10分

「施設生産の大規模化の現状と展望」

伊藤 保(㈱三菱総合研究所 社会公共マネジメント研究本部 主席研究員)

産学連携によるスマート・メガスケール植物工場の具体化に向けた論点

「スマート・メガスケール植物工場研究会について」

久枝和昇(スマート・メガスケール植物工場研究会事務局長、アグリコンサルティング㈱代表取締役社長、千葉大学客員准教授)

「関連産業界が求める各種基盤整備」

石黒 功(イノチオホールディングス㈱ 代表取締役社長)：施設の建築基準

福田晴久(ネボン㈱ 代表取締役社長)：エネルギーの観点

安井一郎(AGC グリーンテック㈱ 代表取締役社長)：施設内環境の最適化実現

「農産物マーケットの変化と生産・加工・流通」

藤井滋生(㈱アグリインキュベーター 代表取締役社長、元イオン農産部長・リテール取締役・アグリ創造 代表取締役社長)

総括

橋本 康(日本学術会議連携会員、愛媛大学名誉教授)

閉会の挨拶

大政謙次(日本学術会議会員・第二部副部長、愛媛大学大学院農学研究科客員教授)

平成28年
7月15日(金)
13:30~16:30

日本学術会議講堂

参加無料
定員200名

事前申込が必要です

(下記の参加申込HPから)

参加申込HP <https://receipt.agr.ehime-u.ac.jp/~sympo2/mpmailec/form.cgi>

●問い合わせ：高山・大内(愛媛大学大学院農学研究科)[E-mail:zinzai@agr.ehime-u.ac.jp]